

2023 年度 UNIRITA ユーザ会 研究会活動

研究テーマおよび研究概要一覧

今年度の研究テーマは以下となります。会員企業様のご参加をお待ちしております。

【東日本地区：情報活用研究部会】

No.	研究部会	研究テーマ	概要（備考）	キーワード	対象
1	東日本 情報活用	これからの IT	<p>参加者は情報システム部や IT ベンダーのマネジメント層の方が対象です。</p> <p>IT の課題に対する最新技術による解決策や導入実績を相互に提供し合う、会社を離れた情報交換の場を提供していきます。また、メンバの豊富な経験を活かし、ユーザ会に参加する研究部会メンバへの支援を行います。</p> <p>本研究グループは複数年参加を基本とし、研究や発表というスタイルを取りません。</p> <p>（2022 年度 IE01 からの継続）</p>	IT 全般	部門長 マネージャ
2	東日本 情報活用	データ活用による カスタマー サクセス	<p>カスタマーサクセス、直訳すれば顧客の成功ですが、その成功は企業それぞれ違います。</p> <p>ですが、共通するのはデータを活用することです。</p> <p>本研究グループでは、データ活用によるカスタマーサクセスについて研究します。</p>	カスタマーサクセス	一般 若手 中堅以上
3	東日本 情報活用	Web3.0 を ビジネスで 活かすには	<p>Web1.0、Web2.0 と来て、今 Web3.0 という言葉は、一般的な言葉として広まっていますが、Web3.0 を利用した技術はすでに利用されています。</p> <p>ビジネスで Web3.0 を活かすにはどうしたらよいか？</p> <p>本研究グループでは、Web3.0 をビジネスで活かすには、について研究します。</p>	Web3.0	一般 若手 中堅以上

No.	研究部会	研究テーマ	概要（備考）	キーワード	対象
4	東日本 情報活用	HRTech で 変わる IT 人材 調達と育成	<p>ビジネスにおける人事領域に活用できる HRTech とは何か？</p> <p>すでに HRTech はありますが、課題は何か？これからできることは何か？</p> <p>本研究グループでは、HRTech で変わる IT 人材調達と育成について研究します。</p>	HRTech	一般 若手 中堅以上
5	東日本 情報活用	サーバーレス コンピューテ ィングで企業 はどう変わる か？	<p>クラウドを利用する企業は多いですが、運用費用の問題やベンダー依存などメリットもある反面課題もあります。</p> <p>上手にサーバーレスコンピューティングしていくには、どうすべきか？</p> <p>企業はどう向き合うべきか？</p> <p>本研究グループでは、サーバーレスコンピューティングで企業はどう変わるか？について研究します。</p>	クラウドネイ ティブ、 サーバーレ ス、 サーバーレス コンピューテ ィング	一般 若手 中堅以上
6	東日本 情報活用	DX 時代の ビジネス アナリスト	<p>社内にて、ビジネスアナリストと呼ばれる人を育成していくには何が必要か？</p> <p>ベンダーに依頼する際はこういった観点でチェックすればよいのか？</p> <p>企業内で必要とされるビジネスアナリストの育成、または利用法？</p> <p>本研究グループでは、DX 時代のビジネスアナリストについて研究します。</p>	DX ビジネス アナリスト	一般 若手 中堅以上
7	東日本 情報活用	属人化を解消 する技能伝承 と リスクリング	<p>各企業において色々な意味で技能を伝承するという課題があります。</p> <p>そこには属人化ということも含まれます。</p> <p>これから IT を使うことでのリスクリングをしながら技能を伝承していくにはどうしたらよいか？</p> <p>本研究グループでは、属人化を解消する技能伝承とリスクリングについて研究します。</p>	技能伝承 属人化 人材不足 リスクリング	マネージャ 一般 若手 中堅以上

No.	研究部会	研究テーマ	概要（備考）	キーワード	対象
8	東日本 情報活用	データファブ リックの 必要性	<p>様々なデータを一元管理する技術であるデータファブリックが注目されています。</p> <p>企業において、どのようなケースでデータカタログが必要となるか、どのようにデータファブリックを構築、運用すべきかという方法を探ります。</p> <p>本研究グループでは、データファブリックの必要性について研究します。</p>	データファブ リック	一般 若手 中堅以上
9	東日本 情報活用	これからの マーケティング	<p>近年 IT 技術を活用したデジタルマーケティングが広まってきました。</p> <p>また、ここ数年間は新型コロナウイルスの影響で人々の生活に大きな変化があり、IT 技術を活用したマーケティングの重要性が高まっています。</p> <p>今後企業のマーケティング活動において、どのような取り組みが必要になるのでしょうか。</p> <p>本研究グループでは、これからのマーケティングについて研究します。</p>	マーケティング	一般 若手 中堅以上
10	東日本 情報活用	量子コンピ ュータの可能性	<p>量子力学の原理を使って計算を行う量子コンピュータが注目されています。</p> <p>現在、様々な企業が開発を競い合っており、将来的な活用が期待されています。</p> <p>量子コンピュータが実用化されるとどのような未来が待っているのか。</p> <p>また、人々の生活にどのような影響を与えるのか。</p> <p>本研究グループでは、量子コンピュータの可能性について研究します。</p>	量子コンピ ュータ	一般 若手 中堅以上
11	東日本 情報活用	わかりやすい ゼロトラスト セキュリティ	<p>何も信用しないことを前提に対策を行うゼロトラストセキュリティという新しい考え方が提唱されました。DXの推進やリモートワークの普及により、近年注目されています。</p> <p>本研究グループでは、ゼロトラストセキュリティを実装した時の課題や解決策などは何かを研究します。</p>	ゼロトラスト セキュリティ	一般 若手 中堅以上

【東日本地区：システム運用研究部会】

No	研究部会	研究テーマ	概要（備考）	キーワード	対象
1	東日本 システム 運用	運用管理事例	<p>参加者は、情報システム部や IT ベンダ、メーカーのマネジメント層の方を対象とします。</p> <p>IT の課題に対する最新技術による解決策や参加企業を含めた様々な業態の導入事例、実績を相互に提供し合う、会社を離れた情報交換の場を提供していきます。</p> <p>また、メンバの豊富な経験を活かし、ユーザ会に参加する研究部会メンバへの支援を行います。</p> <p>本研究グループは、複数年参加を基本とし、研究や発表というスタイルを取りません。</p> <p>（2022 年度 OE01 からの継続）</p>	事例研究	部門長 マネージャ
2	東日本 システム 運用	メインフレーム マイグレーション	<p>2022 年は、富士通社が 2030 年度（2031 年 3 月期）末にメインフレームの製造・販売から撤退することを発表しました。それをきっかけにメインフレームを活用する企業は、様々な対策を検討する取り組みが各社でスタートしています。“脱メインフレーム”のキーワードが WEB 上でも取り上げられ、支援する各社からは、サービスから発表されています。企業のシステム担当者は、経験したことのない脱メインフレームの大行事を今後計画し、実行しなければなりません。メインフレームマイグレーションに取り組んだ事例、実際に取り組んだ際の課題、問題から、これから取り組むシステム担当者が考慮すべき、計画前に検討すべき必要な対策を検討します。</p> <p>本研究グループでは、脱メインフレームを達成するためにどんな対策を取るべきかを研究します。</p>	脱メインフレーム マイグレーション手法 事例研究 次期システム検討	マネージャ 一般 若手 中堅以上

No	研究部会	研究テーマ	概要（備考）	キーワード	対象
3	東日本システム運用	パブリッククラウドのシステム運用業務	<p>パブリッククラウドで稼働するシステムが増える中、システム運用業務として、稼働管理の重要性や障害切り分けの複雑性などパブリッククラウド特有の運用課題が見えてきました。特に、パブリッククラウド特有の専門知識、24時間365日でのリモート対応に必要な運用、パブリッククラウドのコスト可視化、サービスに関するセキュリティやSLA（Service Level Agreement）管理など、パブリッククラウドを積極採用している企業は、特有の運用課題を解決しながら、取り組んでいる状況です。パブリッククラウドの運用標準化を目指し、パブリッククラウド活用に必要なシステム運用業務の取り組みを検討します。</p> <p>本研究グループでは、パブリッククラウド活用に必要なシステム運用業務について研究します。</p>	パブリッククラウド 運用標準化	一般 若手 中堅以上
4	東日本システム運用	SDGs テックを用いた IT 部門の社会貢献	<p>SDGs を経営に取り込んでいる企業はまだ少ないが、サステナブル企業と認知されるためには、これまでに実施してきた情報セキュリティ対策や IT による従業員の安全・健康確保、IT・DX による業務改革を継続しながら、国連が掲げる 12 テーマの実現を目指す SDGs テックに取り組まなければならない。IT 部門による予算確保を考慮すると、推進しやすい SDGs テックは、スマートビルディング、デジタル技術による設備の効率的な運転、エコスマートな移動・輸送となる。エネルギー供給・設備稼働・物流の安定化をもたらす企業の生産力を高めるだけでなく、エネルギー効率を上げてコスト削減にも寄与する。同時に CO2 排出量の削減という社会課題も解決している。ESG Index の組入銘柄である企業の多くは、業種問わずこれらの SDGs テックに既に取り組んでおり、IT 部門にとっても参考になる。今後、多くの IT 部門が SDGs テックを支援するためには、どのような取り組みが有効か検討します。</p> <p>本研究グループでは、SDGs の取り組みとして、IT 部門が支援する SDGs テックについて研究します。</p>	SDGs サステナブル企業 社会貢献	マネージャ 一般 若手 中堅以上

No	研究部会	研究テーマ	概要（備考）	キーワード	対象
5	東日本 システム 運用	クラウドサービ スアップデート 運用	<p>システム障害に至る一つの原因として、クラウドサービスのアップデートのイベントが取り上げられる。</p> <p>Windows の OS アップデートによる不具合発生その他、最近では、ブラウザ Edge においても PDF 出力ができない等のアップデート後に業務影響を及ぼす障害が発生している。アップデートは、セキュリティ面からも機能向上の面からも重要な対応であり、適応する必要がある。運用部門としても重要な業務の一つとして考えられている。過去にソフトウェアのパッチ適用については、事前にその内容の確認や事前検証を踏まえ、適用の可否を判断してきた古くからの運用がある。現在のクラウドサービスについてもアップデートに関する運用ルールや手順について検討します。</p> <p>本研究グループでは、クラウドサービスのアップデート後の障害未然防止の取り組みとして、運用部門が実現するクラウドサービスのアップデート運用について研究します。</p>	運用ルール 運用手順 障害未然防止 クラウド	一般 若手 中堅以上

No	研究部会	研究テーマ	概要（備考）	キーワード	対象
6	東日本 システム 運用	障害未然防止の ための予兆検知	<p>製造業などでは、品質異常（障害）を未然に検知し、対策をする活動が常態となっており、AIが活用されています。一方、システム運用業務では、システム障害の未然防止をシステム運用業務として常態とするには至っていません。しかし、システム障害後の報告レポートには、システム障害を振り返った際に、システム運用担当者が気づいた様々な出来事（日常と比較した相違点、普段出力されないイベントやメッセージ出力、等）が振り返りの中で報告されています。システム障害に至る前にAI、等の機械学習により、未然防止（予兆検知）を予測する取り組みができないかチャレンジし、各企業で実現可能な予兆検知の活動を検討します。</p> <p>本研究グループでは、障害未然防止を目的としたシステム運用部門が実現する予兆検知運用について、具体的なAIツール、システムログ等を活用し、研究します。</p>	AI 予兆検知 障害未然防止	一般 若手 中堅以上
7	東日本 システム 運用	システム運用業 務のテレワーク 実現	<p>テレワークによるシステム運用業務の実現が進んでいます。システム運用人材を採用するために、働き方の多様性を考慮したメッセージを示す企業も増えています。コロナ渦をきっかけに始めたテレワークですが、現在は、「有事の際の業務継続性」「働き方多様性」の観点からも必要な取り組みとして進められています。システム運用業務の中でもお問合せ受付窓口の対応や監視業務、等、テレワークで実現可能な業務が拡大しています。テレワーク可能な業務整理、課題や考慮点、必要な設備、等を確認し、テレワークを定着させるための対策について検討します。</p> <p>本研究グループでは、業務継続性や働き方多様性の実現の観点から、システム運用部門が実現するテレワークの進め方について研究します。</p>	テレワーク 働き方の多様性 業務可視化	マネージャ 一般 若手 中堅以上

No	研究部会	研究テーマ	概要（備考）	キーワード	対象
8	東日本 システム 運用	ITIL4 活用	<p>2019年に発表されたITIL4は、これまでのITILV3に対してアジャイル、クラウド、リーン等の要素を取り入れたデジタルトランスフォーメーション（DX）時代のIT対応サービスを管理するための包括ガイダンスであり、ITとビジネスをシームレスにつなげ、サービスの価値を最大化する「新しいサービスマネジメント」となっています。これまで各企業では、ITILV2、ITILV3を参考にシステム運用業務を設計してきました。発表から3年が経つITIL4について取り上げ、現在のシステム運用業務について総点検を行い、具体的にITIL4を参考にした最新のシステム運用業務への変更見直しを検討します。</p> <p>本研究グループでは、最新のITILフレームワークを活用し、システム運用部門のシステム運用業務の総点検と適用方法、効果等について研究します。</p>	ITIL フレームワーク 活用 サービスマネジ メント デジタルトラン スフォーメーシ ョン（DX）	マネージャ 一般 若手 中堅以上
9	東日本 システム 運用	システム運用業 務の引継ぎ	<p>システム運用業務の引継ぎについては、正解がない取り組みとなっている。システム運用担当者変更による引継ぎ、アウトソーシングサービスの活用による引継ぎ等、引継ぎが必要な場面が多くある状況です。しかし、システム運用現場での引継ぎの進め方は様々な進め方となっており、過去からシステム運用定義書やシステム運用ガイド、手順書が整備されている状態もあれば、引継ぎに必要な書類が揃っていないケースもある状況です。引継ぎの成果についてもばらつきがあり、引継ぎミスにより、システム障害が発生している状態です。引継ぎをする側と引き継がれる側の意識が双方で合致することも重要なポイントです。システム運用業務の引継ぎは、業務停止することができない大変重要な業務となっているため、引継ぎ結果にコミットするための引継ぎガイドライン、手順やチェック方法を検討をします。</p> <p>本研究グループでは、システム運用業務の引継ぎの進め方と成果検証について研究します。</p>	技術伝承 業務可視化 業務効率化 品質向上	マネージャ 一般 中堅以上

No	研究部会	研究テーマ	概要（備考）	キーワード	対象
10	東日本 システム 運用	システム運用業 務のスペシャリ スト像	<p>システム運用業務は多様化しており、システム運用担当者に対するスキル要求も変化し続けています。システム運用業務に携わるシステム運用担当者にとって、目指すべき人材像を明確に捉えることが難しい状況です。そのため、これまでは企業内の目標設定や自己研鑽において、諸先輩方の働き方や経済産業省が示す IT スキル標準を参考にしてきました。一般的にシステム運用担当者は、どのようなスキルを保有していればいいのか、どのような経験を積み、判断力をどの程度磨いていけば、目指すべきスペシャリストに近づけるのかについて、独自のスキルセットとして各社で定義している状況です。その状況を踏まえ、システム運用担当者が活用可能な実態に合ったシステム運用担当者のスキル標準を検討します。</p> <p>本研究グループでは、システム運用業務に携わるシステム運用担当者が今後参考にできるスキルセットを纏め、あるべき人物像について研究します。</p>	システム運用担 当者 スキル標準 スキルセット IT 資格	マネージャ 一般 若手 中堅以上

【中部地区：情報活用研究部会】

No	研究部会	研究テーマ	概要（備考）	キーワード	対象
1	中部 情報活用	今後求められる IT 技術、IT エン ジニアの姿を考察	<p>ビジネスにおける更なるデジタル化、データの利活用の推進が進む中、IT エンジニアとして新たな技術に適用できるスキルや幅広い IT 知識を求められています。</p> <p>IT 業界やシステム部門で更なる活躍をしていくために、注目されている技術や手法などについて、理解や予見を深めることが必要ではないでしょうか。</p> <p>今後求められる IT 技術や IT エンジニアの姿を研究していきます。</p>	IT スキル習得、 IT やエンジニア の今後	IT エンジ ニア職の中 堅、若手

【中部地区：システム運用研究部会】

No	研究部会	研究テーマ	概要（備考）	キーワード	対象
1	中部 システム 運用	貴方が考える「運 用業務の将来、必 要となるスキル」 とは	<p>私たちのビジネスにおいて IT サービス無しには成り立たず、そのインフラを支えているのが運用担当者です。DX の加速で次々にリリースされるシステムに対し運用として追従する一方、運用の効率化もますます求められているのではないのでしょうか。そのような中でも、システムを構築したアプリやインフラ担当者側からの運用への想いを取り込むことも大切です。運用現場を支え担っていく人材を目指し、今後のシステム運用のミライ、業務に必要なスキルについて研究します。</p>	システム運用管 理、 システム運用業 務の将来	中堅 若手 システム運 用に興味のある方

【西日本地区：合同研究部会】

No	研究部会	研究テーマ	概要（備考）	キーワード	対象
1	西日本合同研究部会	業務変革とIT活用	<p>参加者は情報システム部やITベンダーのマネジメント層の方が対象です。</p> <p>IT全般についての問題・課題や活用方法を情報交換しながら、解決策をディスカッションする会社を超えた情報交換の場になります。</p> <p>また、メンバの豊富な経験を活かし、ユーザ会に参加する研究部会メンバへの支援を行います。</p> <p>本研究グループは複数年参加を基本とし、研究や発表というスタイルを取りません。</p> <p>（2022年度GW01からの継続）</p>	DX 事業継続計画 人材活用 リエンジニアリング メタバース Web3.0	部門長 マネージャ
2	西日本合同研究部会	職場の心理的安全性を高めるコミュニケーション技術	<p>わたしたちの職場は「誰もが率直な意見や素朴な疑問を言い合える状態」になっているのでしょうか？</p> <p>「心理的安全性」を高めるためのコミュニケーションの方法について、最新ITの活用、話し方や会議の改善、雰囲気の良いチーム作りなどあらゆる観点から研究します。</p>	心理的安全性 モチベーション チームビルディング 1on1	マネージャ 一般 若手 中堅以上
3	西日本合同研究部会	ESG推進に向けたIT部門の取り組み	<p>近年、持続可能な社会づくりのために、あらゆる企業にESG（環境・社会・企業統治）経営が求められてきています。</p> <p>企業が「環境に配慮した製品・サービス」や「柔軟な働き方」などの実現に向けて対応する際に、IT部門では具体的にどのような取り組みができるのでしょうか。</p> <p>環境問題や社会課題に関わるESGを通じて、IT部門が社会に貢献できる取り組みについて研究します。</p>	ESG SDGs コーポレートガバナンス 持続可能性 ダイバーシティ	マネージャ 一般 若手 中堅以上

No	研究部会	研究テーマ	概要（備考）	キーワード	対象
4	西日本合同 研究部会	AI を活用した 自動化の実現	<p>昨今、デジタル化の動きは更に加速しており、デジタルイゼーションからデジタルライゼーション、DX のフェーズに移りつつあります。また AI・自動化の領域においてはハイパーオートメーションや AIOps というキーワードが世間を賑わせており、それらを今後より上手く活用する事で、よりビジネスへの貢献が期待されています。</p> <p>本研究グループでは、そのような可能性を実現すべく、企業の事業部門や IT 部門において、最新 AI や RPA 等を活用して、業務改善や生産性の向上等どのようにビジネスに貢献できるかを研究します。</p>	AI 自動化 画像生成 AI	一般 若手 中堅以上
5	西日本合同 研究部会	メタバースと 社内活用	<p>近年、3次元の仮想空間となる「メタバース」は、マーケティングやイベントなどの様々なビジネスシーンで活用されはじめています。メタバースを企業内で活用することにより、社内業務やコミュニケーションにどのような効果が期待できるのでしょうか。社内における業務改善やコミュニケーションの変革に向けて、メタバースを活用する方法について研究します。</p>	メタバース メタバースオフ イス アバター 業務改善 働き方改革	一般 若手 中堅以上
6	西日本合同 研究部会	DX 組織を前提 とした技術者の アップデートを 考える	<p>DX 組織を作るためには、組織の変革、技術の変革、そして技術者の変革が必要になります。</p> <p>DX 組織を作るためには、どんな技術者が必要なのでしょうか。また、そういった技術者になるにはどうすれば良いのでしょうか。もしくは、そういった技術者を育てるにはどうすれば良いのでしょうか。そういった技術者を採用したり、委託するにはどうすれば良いのでしょうか。</p> <p>本研究グループでは、自分たちが DX 組織に必要な技術者にアップデートする方法を研究します。</p>	DX データサイエン ティスト ビジネスアナリ スト ビジネスデザイ ナー UX デザイナー	マネージャ 一般 中堅以上

No	研究部会	研究テーマ	概要（備考）	キーワード	対象
7	西日本合同 研究部会	マルチクラウド における ITIL4	<p>ITIL4 は、ビジネスとテクノロジーの一体化をスタート地点として新たな企業のコアを創造することが求められている DX 時代に向けて、IT 部門が中心となって、DX を推進する教科書になります。</p> <p>DX 時代では、様々なクラウドサービスを利用することで、その管理に困っている IT 部門も多いようです。DX 推進を行うためには、マルチクラウドの管理も必須となります。</p> <p>本研究グループでは、DX 時代のマルチクラウドにおける ITIL4 を活用した IT 運用と効果を研究します。</p>	マルチクラウド ITIL4	一般 若手 中堅以上

【九州地区：情報活用システム運用研究部会】

No	研究部会	研究テーマ	概要（備考）	キーワード	対象
1	九州 情報活用 システム 運用	メタバース 活用で変わる 業務	<p>3次元の仮想空間（バーチャル空間）となる「メタバース」は、様々なビジネスシーンで活用され、メタバース市場の規模は拡大傾向にあり、将来的にも成長が期待されます。</p> <p>メタバースを業務に活用するとどのような効果が期待できるのでしょうか。メタバースを活用することによって、私たちの業務はどのように改善され変革していくのかについて研究します。</p>	メタバース メタバースオフィ ス アバター 業務改善 働き方改革	一般 若手 中堅以上

以上